

イネ稲こうじ病の薬剤散布適期判定システム

診断に必要な情報をウェブプログラム上で登録すると、散布適期の開始日を含む情報を電子メールで配信するシステムを開発

研究開発の背景

- ・近年全国的に稲こうじ病が多発生し、食用米では規格外米、採種圃産種子では病粒の混入が問題となり早急な対策が必要。
- ・本病は適期防除が難しく、地方自治体の防除基準のみでは散布適期を逸しやすい。
- ・このため、適期に防除を支援するシステムによる発信情報を利用した被害抑制が有効。

研究成果の内容

発生量を予測するモデル

降雨、日平均気温
(リアルタイムアメダスデータ)

診断情報の登録
(土壌菌量、品種抵抗性、出穂期)

システム化

発生量の予測値をグラフ表示



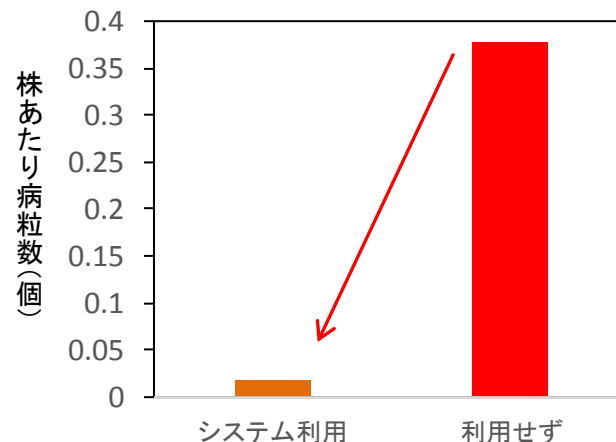
散布適期開始を知らせるメールで防除を促す

登録された薬剤「ドイツボルドーA」の散布適期に入りました(7月2日)
アメダス地点: 安塚
品種: コシヒカリ



導入メリット

メールの配信情報を利用し適期防除することにより、発生量が大幅に減少



注)メールの散布適期開始情報を受信後に薬剤散布

中央農業研究センターホームページの成果マニュアルページ
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/narc/manual/058289.htmlにおいて、「イネ稲こうじ病の薬剤防除マニュアル」として公開(2015年5月)

期待される効果

- ・薬剤散布適期を的確に捉えた防除が可能。
- ・主食用米、飼料用米・サイレージの品質向上、販売種子の健全生産。

導入をオススメする対象
全国の採種・一般農家、JA営農指導員、普及センター職員